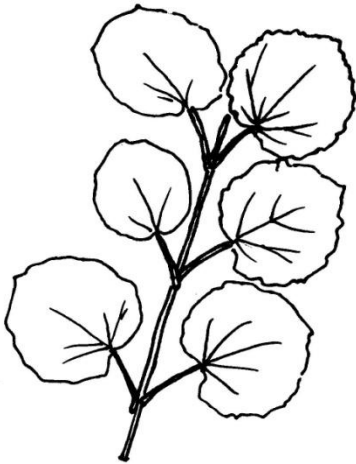




只見町ブナセンターだより

冬もミュージアムは元気いっぱい です

12月号



今年は香っぱ焚っきゃったがや？

香っぱ（コオッパ）とは、カツラの葉のことで、あまい香りがします。只見町では昔から、仏様の供養にあげるお香の材料に使いました。

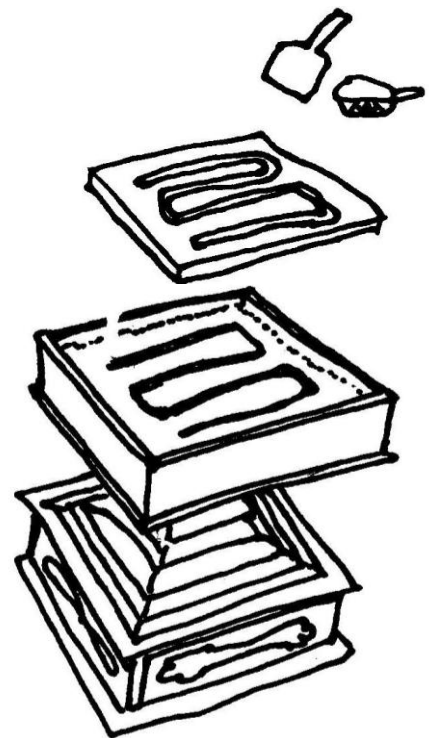
乾燥させた粉末（抹香/まっこう）を香箱で焚きますが、この香箱がユニークです。抹香を一定のすじ状に盛るための型がセットされていて、江戸時代に流行した香時計とよく似ています。また仏教でお香を絶やさずに焚くための常香盤（じょうこうばん）とも似ています。只見町に広まったルーツをたどってみると、おもしろそうです。

今も、カツラの葉で抹香を作っている本名ムツさん（黒谷）に、お香を焚いてもらいながら話をききました。

Q. いい香りだなあ。お香の焚き方をだれに教わったんだや？

「そうだべや。自然のやさしい香りがいいのなあ。長浜の実家では毎朝、お香を焚いていて、中学生になって初めてやらせてもらった時のことをよく覚えている。

実家のやり方は、この家と違って、葦を2つに割ったような道具があつてや。その溝にお香をつめて、ひっくり返して盛っていくんだ。



【ムツさんの香箱を焚く手順】

1. 灰を敷きつめた香盤に型を置く
2. 抹香を上からまく
3. 備え付けのヘラで、ミゾをきれいにならす
4. そっと型を外すと、抹香が綺麗にすじ状に盛られている
5. 末端から火を灯す。ムツさん宅の香箱の場合はおよそ2時間かけて燃え続ける
6. 型取りやヘラは台座に引き出しに収納する

「この家に嫁いできて、しばらくはじいちゃんとはあちゃんがコオッパを採りに行くのを憧れる気持ちで見ていたのなあ。何年かして、ばあちゃんから『香っぱ、採ってきてけろ』と頼まれたときは、ああ、私にやらせてもらえるんだあと、うれしかったのなあ。

それから毎年、私が採りにいって、お香が余るようになって、ばあちゃんは『これは、いつか役立つからしまっておくべ』と大切に保管してくれていた。

今でもお香を焚くと、家族のいろいろな思い出がうかんでくる」

Q. お香はいつ焚ききゃんだや？

「うちでは、年取り（大晦日）や彼岸、

お盆に焚いた。ほかにもだれかの命日とか、仏様の供養をしたいと思いついたときに焚いていたなあ」

Q. 香っぱの干し方を教えてけやれ

「土用干しにするのがいいのな。7月末の日差しの強い日に香っぱを採ってきて、新聞紙に1日広げてチョリチョリに乾燥させる。それを手もみして、枝を取り除いて、ふるいで粉にして保管しておく。香箱はどこの家にもあると思うけど、香っぱを採りに行く人は最近、減った気がするな。

Q. おれも来年はやってみっぺ。

ありがとうでやした。聞き手：晶子

連載・ただみの昆虫記 —4

大きさはテントウムシ(ナミテントウ)の約2倍

カメノコテントウ

甲虫目テントウムシ科/亀子瓢虫



カメノコテントウ

晩秋になると、越冬場所を求めて様々な昆虫が山間部から平地に飛来してきます。秋晴れの暖かい日には、外壁や電柱などにカメムシの仲間やテントウムシの仲間が多数集まっているのを目撃することも、只見町では珍しいことではありません。そうした中に今回紹介するカメノコテントウが見られます。大きさはテントウムシ(ナミテントウ)の約2倍、幼虫は大きくなると体長が1.5センチ以上に成長し、只見町に生息しているテントウムシの中で最も大きい種類です。

テントウムシといえば一般にアブラムシを食べることが知られていますが、カメノコテントウは主にハムシの幼虫を食べます。只見町にはオニグルミやサワグルミなどのクルミ類の葉を食べるクルミハムシ、ハンノキ類の葉を食べるミヤマヒラタハムシが生息しており、それらの幼虫を好んで食べます。

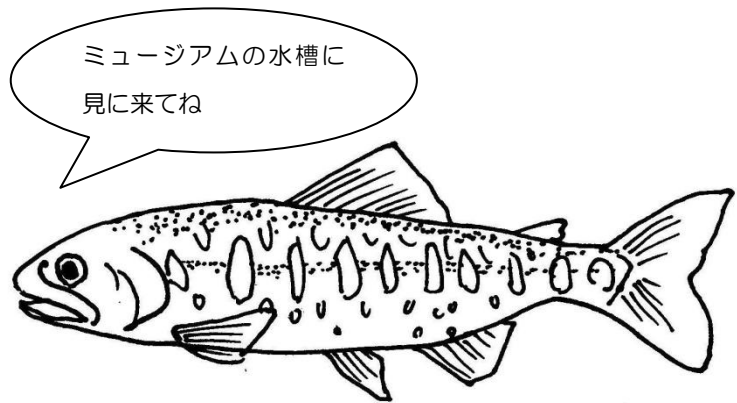
筆者●角田亘さん／1974年、只見町小林で生まれ育つ。横須賀市自然・人文博物館研究員を経て、現在は神奈川県で造園業に就く。只見町での昆虫採集をライフワークとし、現在2000種以上を採集。

連載・ただみの魚たち—3

パーマークが美しい

ヤマメ

サケ科／山女魚



パーマークと呼ばれる小判型をした模様が特徴で、脇がほんのりピンク色をした美しい魚です。イワナよりも少し下流の溪流にいます。

ヤマメは、孵化してから1年半ほどして、海や湖に降り、成長してサクラマスになるものと、そのまま一生を溪流で過ごすヤマメとに分かれます。

ヤマメはすばしっこい魚で、上空を飛ぶ昆虫をねらって、ダイナミックに水面から飛びつくことがあります。

【町内の自然とふれあうイベント情報】

12月23日(祝)午後1時30分～

○第7回只見の自然に学ぼう会

「只見の湧水にすむ生きている化石
・トワダカワゲラ」 今井初太郎氏

場所：只見地区センター

主催：只見の自然に学ぶ会

問い合わせ：0241-82-3242(渡部)

1月16日(日)午前9時～12時

○水鳥観察会<滝湖・只見湖>

集合場所：只見地区センター前9時出発

主催：只見の自然に学ぶ会

問い合わせ：0241-82-3242(渡部)

1月15(土)、2月14日(月)

○スノーアドベンチャー

会場：只見スキー場

主催：会津ただみ振興公社

問い合わせ：0241-82-5250

只見町観光まちづくり協会

2月12日(土)、13日(日)

○第39回只見ふるさとの雪まつり

会場：JR只見駅前広場

主催：只見ふるさとの雪まつり実行委員会

問い合わせ：0241-82-5240

■ブナを知ろう ⑤

雪が動物たちから種子を守る



○ブナの種子は、山の動物たちの大好物です。雪の降らない地方では、冬の食糧として、多くの種子が食べられてしまいます。

○雪国では、種子に降り積もった雪が動物たちからガードしてくれます。春まで安心して越冬できます。

【ただみ・ブナと川のミュージアム特別展示】

●12月1日(水)～平成23年2月28日(月)

「只見の民具とその素材展」

只見町には、祖先から受け継いできた数多くの民具があります。そのほとんどは山から調達し加工して作られたものです。たとえば、鋏や鎌の柄はウワミズザクラ、コーシキはブナ、ザルやハケゴはマタタビが使われています。今回の企画展は、只見の先人たちの知恵や創意工夫を特集します。

ブナ材を利用したもの … シャクシ・コーシキ・ツキグワ

ナラ ” … 鋏の柄・マンガ

クルミ ” … 皮箕・タカバヨ

ホオノキ ” … ゲンベエ型・鎌の柄

ウワミズザクラ ” … ソラックチ・ザルの縁

マタタビ ” … ザル・ハケゴ・メケエ・ドジョウドウ

●第10回ブナセンター講座「只見の自然から生まれた民具」

講師：新国勇さん

日時：平成23年1月16日(日) 午後1時半～午後3時

【おしらせ】

ただみ・ブナと川のミュージアムは、冬季も開館しています！

年末年始の休館は、12月28日(火)～平成23年1月4日(火)です。



Tel 0241 (72) 8355 fax 0241 (72) 8356

〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下
2590 番地「ただみ・ブナと川のミュージアム」内

web サイト ○ <http://www.tadami-buna.jp>

ブログ ○ <http://tadamibuna.blog2.fc2.com/>

E-mail ○ info-buna@amail.plala.or.jp



ホームページが新しくなりました！